

市長提案説明要旨

令和元年8月29日

昨日から九州北部を襲った記録的な大雨により、福岡・佐賀・長崎の3県には大雨特別警報が発令され、残念なことに2名の方の命が奪われてしまいました。また、低地部・平野部などでは浸水被害も多く発生しており、避難所に身を寄せている方の報道には身につまされる思いです。

本市と「災害時相互応援に関する協定」を締結している佐賀県鳥栖市では、大事には至っていないと確認がとれましたので、まずは一安心したところです。

被害にあわれた方々に、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早く元の生活に戻れますことをご祈念いたします。

本日ここに令和元年第3回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案などの説明を申し上げます。

《はじめに》

今年のお盆は、大型の台風10号が西日本をゆっくりと縦断するなどし、予定を変更せざるを得なかった方も多くいらっしゃったかと思います。今回の台風10号に限らず、ここ数年、地球温暖化のせいか、台風や前線がこれまでと違う動きをするなどし、いたる所で被害が発生している状況にあります。

今年5月から、激甚化・頻発化する豪雨災害に対し、避難対策を強化するために「避難勧告等に関するガイドライン」が改定されました。警戒レベルは、避難準備・高齢者等避難開始を促す「警戒レベル3」、避難勧告・緊急の避難指示を促す「警戒レベル4」、そして災害が既に発生している地域に出される「警戒レベル5」など、5段階に分かれています。

ここ鹿嶋市は、気候温暖で自然災害が少なく、住みやすいところとされていますが、今のような気象下においては、いつ、どこで大雨、土砂災害が発生してもおかしくありません。

これから台風シーズンになりますが、どうか皆様におかれましては、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、速やかな避難行動をとられるようお願いいたします。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

(スポーツでつながるまちづくり)

「第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体)」の総合開会式が、1か月後の9月28日に笠松運動公園陸上競技場で開催され、いよいよ「いきいき茨城ゆめ国体」が始まります。鹿嶋市では、9月29日から10月3日にかけて、成年男子と少年男子のサッカー競技が、卜伝の郷運動公園多目的球技場のほか4会場で行われ、全国から40チーム、約1,200人の選手・監督・関係者や、多くの観戦者が鹿嶋市を訪れてきます。

市民の皆様には栽培のご協力をいただいている約1,600もの花プランターや、約200本の小学生による手作り応援のぼり旗を各会場などに設置するとともに、市内小学校による全校応援や中学生が考案した応援グッズやおもてなし料理を中学生が自ら配布するなど、訪れてくる皆様には精一杯のおもてなしをしております。

次に、東京オリンピックの取り組みについてであります。

先日、JR東日本の電子カード・Suica(スイカ)対応型の自動改札機が、来春から鹿島線に導入されることが発表されました。JR東日本に対し、これまで長年に渡り行ってきた要望活動が実を結んだものであり、これも一つのオリンピック・レガシーになるものと喜ぶとともに、インバウンド対策も含めたさらなる受け入れ態勢の強化に向け、心を新たにいたしました。

さて、「東京2020オリンピック」の聖火リレー、そして茨城カシマスタジアムでのサッカー競技の鹿嶋市開催まで1年を切りました。

そのような中、市内の機運醸成を図るため、7月14日に市内ショッピングセンターで『オリンピックが鹿嶋にやってくる』と題したイベントを、7月28日にはまちづくり市民センターにおいて「2019 KASHIMA文化交流フェスティバル」を、『開幕1年前イベント』と位置付けて開催しました。

いずれも多くの方にご来場いただき、鹿嶋市開催の機運も徐々に盛り上がってきているものと確認することができました。

今後も、各種イベントへブースの出展をはじめ、オリンピック・パラリンピックのマスコットをラッピングした市バスや公用車を走らせるなどして、さらなるPR・機運醸成に努めてまいります。また、ボランティアの育成や各種おもてなし事業、さらにはオリンピックの先を見据えた地域活性化につながる活動への取り組みのほか、組織委員会や県などと連携しながら、懸念されている交通渋滞対策も含めた開催運営の準備を進めてまいります。

7月末、新聞やネット上を販出した株式会社メルカリのJ1鹿島アントラーズの経営権取得は、皆様ご承知のことと存じます。アントラーズに関しては、日本製鉄株式会社も従来通り主要株主として支えていき、新たにメルカリの有する優

れたテクノロジーと経営ノウハウが加わることは非常に心強く、さらに強固な経営体制になるものと確信しております。

我らがアントラーズは、7月6日の『ホームタウンデイズ 鹿嶋の日』に、J1最速の500勝という記録を打ち立てました。今期も、J1リーグ、アジアチャンピオンズリーグ、ルヴァンカップ、天皇杯と全冠獲得に向け、厳しい連戦が続いております。市民の皆様には、引き続き熱い応援をよろしくお願いいたします。

(未来を創るひとづくり・まちづくり)

4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が7月に発表され、本市の小学6年生は、国語が全国平均を4ポイント上回り、算数は全国平均並みでした。中学3年生は、本市としては初めて国語・数学・英語全ての科目において全国平均及び茨城県平均を上回り、特に国語は正答率が全国平均より5ポイント以上高い結果となりました。

茨城県では、英語で自分の考えを論理的かつわかりやすく伝えたり、相手の考えについて深く質問したり、実践的な英会話力を育成することを狙いとした「中学校・インタラクティブフォーラム」を開催しています。7月29日に鹿行地区大会が開かれ、8名の代表生徒のうち、鹿嶋市内の中学生が7名を占めました。8月21日に開かれた茨城県大会では、最高位である県知事賞を1名が、他にも県議会議長賞・県教育長賞など計5名が受賞されました。

これらのことは、幼少期からの継続した英語指導や、授業改善プロジェクトの成果が表れたものと思います。今後も、子どもたちが身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら物事を捉え、能動的に学び続けることができるよう、授業改善を推進してまいります。

夏休みを利用して、中学生の異文化体験・国際交流を実施しました。

今年で5年目となるイングリッシュ・サマーキャンプは、福島県にある British Hills (ブリティッシュ・ヒルズ) という施設で、英語力アップだけでなく、国際人としての感覚を養う目的で、市内の中学生23人が参加しました。

あわせて、今年度は、これまでの英語学習の実践及び今後の学習意欲向上を目的に、8月22日～30日の日程で、オーストラリア・ブリスベンに市内の中学3年生14人を派遣しています。

このような事業を経験した中学生が、世界に目を向け、様々な分野で活躍することを願っております。

オリンピック・パラリンピック競技のトップアスリートを「夢先生」として小学校に派遣する事業も、12校中8校が終了し、残すところあと4校となりました。本事業の集大成として、市内の小・中学校の子どもたち用に、東京2020オリンピック競技大会のサッカー競技観戦チケットを組織委員会に申請したところです。ちょっとした経験や感動から、子どもたちの夢は無限に広がっていくと思います。またとないこの機会に、子どもたちがオリンピックを直接肌で感じ、生の感動を覚え、一人ひとりにとってかけがえのないレガシーとなることを期待しております。

教育環境の整備事業も、着実に推進しております。3か年事業として進めていた公立学校の机・椅子更新事業は、最終年度の入替え作業が終了しました。

市内中学校へのエアコン整備工事もこの夏休みにすべて完了し、9月からは中学校全5校において、快適な環境のもと授業が展開されることとなります。

また、東京2020オリンピック競技大会の関連施設として利用が見込まれるカシマスポーツセンターでは大規模改修工事を実施しているほか、鹿嶋勤労文化会館では空調設備の更新、老朽化が著しいまちづくり市民センターでは屋根・雨樋の改修など、社会教育施設についても、環境整備を鋭意進めてまいります。

(地域資源を生かしたまちづくり)

今年の下津・平井海水浴場は、7月13日から8月18日までの37日間開設し、約41,000人の海水浴客が訪れましたが、梅雨明けの遅れや7月に悪天候が多かったことなどが影響し、前年度と比べ1割の減少となりました。

近年、若者の海離れが指摘されていますが、海には爽快感、開放感など、素晴らしい魅力があり、海水浴、釣り、サーフィンと、年間を通して多くの方が県内外から鹿嶋を訪れてきています。引き続き、海岸を活用したビーチスポーツや賑わいづくりなどを通して、本市の豊かな海の魅力を発信してまいります。

10月5日・6日の両日、茨城県と鹿嶋市主催のイベントとして、「茨城をたべよう収穫祭」をカシマサッカースタジアム周辺で開催いたします。この事業は、本県の新鮮で安全な農林水産物や県産食材使用の料理等を県内外に広く発信し、県産農林水産物の消費拡大を図ることを目的に、平成25年度から県内各地で開催されているもので、鹿行地区では初の開催となります。物産品や飲食物の販売以外にも各種イベントを計画し、多くの来場者が楽しみながら、県内の食材を満喫できる盛大な祭りとなるよう準備を進めてまいります。

本市最大の市民参加イベントである「第29回鹿嶋まつり」は、福祉の祭典「みんなの広場」や、来年に迫ったオリンピックのPRイベントと同時開催で、10月26日・27日の2日間、カシマサッカースタジアム周辺で開催いたします。

恒例の模擬店・物産展のほか、人気のある「こどもお仕事体験 かしまちワーク」や屋外ステージでのキャラクターショーなど、今年も盛りだくさんの内容となっていますので、多くの方にお楽しみいただけたらと考えております。

9月12日・13日の両日、東京駅近くにある移住・交流情報ガーデンで、鹿嶋市へのU・I・Jターンにより就職を希望する方、移住したい方を対象とした「鹿嶋市移住・就職相談会」を開催いたします。

鹿嶋市のPRのほか、現在13社による就職面接や企業説明を予定しています。本市の魅力を多くの方に届け、移住・定住につなげてまいりますので、東京近郊にお住まいの学生や移住を希望するお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひご案内いただきたいと思います。

鹿島港外港公共埠頭は、定期的な貨物船の入港により、安定した取扱量が見込まれ、利活用が図られているところです。

外港埠頭の整備については、今年度も、港内静穏度を向上させるため、南防波堤のケーソン据付工事や、中央防波堤の内側などでの消波ブロック設置工事が昨年度に引き続き、計画的に進められています。

今後も、県や港湾関係団体と連携を図り、外港公共埠頭の整備と利活用促進について積極的に関係機関へ要望活動を行ってまいります。

(住んで安心のまちづくり)

災害発生時において、最も優先されるのは『人命救助』であります。

7月31日、災害拠点病院として茨城県の指定を受けるべく準備を進める小山記念病院と「災害時の二次救急告示病院における水の提供に関する協定」を締結いたしました。

これにより、鹿行地域に大規模災害等の発生に備えた地域災害拠点病院が確保され、傷病者の受け入れや救護活動を円滑に実施できる体制整備が図られるものと考えております。

今月25日、鹿嶋市消防ポンプ操法大会をカシマサッカースタジアム駐車場で開催し、火災現場を想定した機器操作など、消火活動の重要性を確認しました。

11月には、茨城県と連携して、武井地区で水害や土砂災害を想定した住民避難力強化訓練を実施いたします。この訓練は、本市では初めての実施であり、危険個所や避難場所を確認し合い、避難する際に自分が何を行うべきかなどを時系列に整理するものです。

今後も、消防団員の確保と技術力向上、地域防災力の強化を推進してまいります。

今年度も、75歳以上の方を対象に、敬老会を実施いたします。今年は105歳の女性の方を筆頭に、対象者数は10,061名にのぼり、初めて1万人を超えました。

12の小学校区と6つの施設を単位として開催し、高齢者を敬い、長寿をお祝いするとともに、市勢発展の基礎を築いてくれたことに対する感謝の意を表し、併せて、地域福祉の推進を図ってまいります。

公共交通空白地の解消を目指して開始したデマンド型乗合タクシーですが、昨年7月の試験運行から1年を経過しました。登録者数、目的施設数、利用者数それぞれ着実に増え、現在では登録者数は1,200人、目的施設数も110箇所を数え、利用者数は月間延べ900人を超えるなど、順調に推移しているところです。

1日6便の運行体制につきましても、利用者から増便の要望が多かったことから、来週の9月2日から、2便増やした1日8便体制に拡充してまいります。

今後も、関係機関や交通事業者などと協議をしながら、市民の利便性を向上すべく、公共交通の充実を図ってまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

《決算認定》

次に、本議会で認定をいただく、平成30年度決算についてであります。

一般会計ですが、歳入総額は前年度比6.0%減の264億5,474万7千円、歳出総額は、前年度比2.1%減の252億7,008万6千円となりました。

この増減の要因は、歳入では、地方消費税交付金が増となったものの、地方交付税のうち震災復興特別交付税の減、繰越金のうち市街地液状化対策事業に係る前年度繰越金の減、歳出では、市街地液状化対策工事の皆減や茨城国体施設整備事業、小中学校大規模改造事業の減などによるものです。

歳入歳出の差引額は、11億8,466万1千円で、繰越財源を差し引いた実質収支は、9億1,217万円の黒字となりました。

規定により、この実質収支額の2分の1相当額として、4億6千万円を財政調整基金へ積み立て、本年度への繰越金は4億5,217万円となりました。

特別会計ですが、7会計の総計といたしまして、歳入が17億7,877万1千円減の130億5,883万6千円、歳出が14億6,171万5千円減の129億9,529万6千円となり、歳入歳出の差引額が6,354万円の黒字となりました。なお、対前年度で歳入歳出ともに大幅な減になっているのは、平成30年度から鹿島臨海都市計画下水道事業公共下水道特別会計が地方公営企業法の適用を受け、企業会計に移行したことによるものであります。

引き続き、持続可能で安定的な財政運営ができるよう、行財政改革の取り組みを進め、予算の効率的、効果的な執行を心掛けるとともに、市民の皆様が安心して暮らせる鹿嶋市を目指してまちづくりを推進してまいります。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が4件、条例関係議案が25件、その他の議案1件、諮問関係議案が1件、認定議案が4件、合わせて35件であります。

まず、予算関係議案は、令和元年度の一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、宮中地区賑わい創出事業、教育・保育施設入所支援事業、予防接種経費、一般廃棄物広域処理事業、その他の市道整備事業、0102号線市道整備事業、小・中学校施設管理費などを計上しております。

介護保険特別会計補正予算については、平成30年度事業費確定に伴う国庫支出金等返還金などを計上しております。

下水道事業会計補正予算については、建設改良費などを計上しております。

水道事業会計補正予算については、職員給与費などを計上しております。

条例関係議案は、新たに制定するものが2件、改正するものが23件であります。

新たに制定する条例は、鹿嶋市大野潮騒はまなす公園条例などであり、改正する条例は、鹿嶋市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例などあります。

その他の議案は、損害賠償の額を定め、和解することについてであります。

諮問関係議案は、人権擁護委員候補者の推薦について議会の意見を求めるものであります。

認定議案は、平成30年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定についてなどあります。

私の説明は以上で終わりますが、予算、決算認定以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をさせていただきます。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。

ます。